

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第234号



今回のテーマ **技術革新とともに拡がりをもせる「XR」**

近年、XR (Extended Reality) と呼ばれる技術の発達に伴ない、様々な新しいビジネス・商品の開発が進んでおり、注目を集めています。今回は、「XR」と「XRを活用した新ビジネス」について調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

1. XR (Extended Reality)

「XR」とは、現実空間とバーチャル空間を融合する様々な技術の総称で、ゲームなどの分野で活用される機会が増加していることなどを背景に、近年、注目を集めています。

XRの主な技術には「VR、AR、MR」などがあり、それぞれ以下のような特徴を有しています。

- ・VR (Virtual Reality) : 「仮想現実」と言われるもので、専用のゴーグルなどを使用することで、人工的に創られたバーチャル世界に入り込んだような体験が可能になります。
- ・AR (Augmented Reality) : 「拡張現実」と呼ばれ、スマートフォンなどを通じて、現実存在する街や道などにバーチャル情報を重ね合わせる技術です。ゲームアプリなどに活用されています。
- ・MR (Mixed Reality) : 「複合現実」と呼ばれる、ARの発展型です。バーチャルコンテンツに触れて操作したり、複数人での空間の共有が可能で、より高いリアリティーを感じられる技術です。

XRの中でも最初に登場したのがVRで、1930年代に飛行機の操縦シミュレーションを目的に開発されたと言われています。その後、1990年代に入ると、VRを使ったゲームの商品開発が相次いだものの、当時の技術ではコンテンツの完成度が不十分だったことなど

ステップアップ

調査会社の予測では、世界のVR・AR関連市場は2018年の89億米ドルから、2023年には1606.5億米ドルへと急拡大が見込まれています。今後、投資の分野においても注目が高まると考えられます。



(次のページへ続きます)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

から、広く普及するには至りませんでした。しかし近年では、技術の発達に加えて、スマートフォンなどのハードウェアや5G(次世代通信規格)といった通信インフラの普及により、ゲームだけでなく、小売や観光・製造業など幅広い分野での活用が進むなど、XRは私たちの生活に身近なものへととなりつつあります。

2. XRを活用した新ビジネス

XRの普及に伴ない、新しいビジネスも数多く誕生しています。小売分野では、「バーチャルショップ」と呼ばれる仮想店舗を出店する動きが広がっています。利用者は、バーチャルでありながら、実店舗さながらに商品の雰囲気やサイズ感、接客サービスなどを体験でき、一般的なオンラインショッピングとは一線を画す、新たな小売形態として普及が期待されます。

観光分野では、「バーチャルツアー」を提供する企業が増加しています。バーチャルツアーは、VRなどを用いて疑似的に観光を楽しめるサービスで、普段は立ち入り禁止となっているエリアを観光できるなど、バーチャルならではの特徴を有しています。大手旅行会社では、海外の外国人向けに日本全国の観光地をVRで再現し、利用客がアバター(デジタル上の分身)となって観光地を散策したり、クラウド上で利用者同士が交流できるプラットフォームを提供しています。こうした取り組みは、コロナ禍で観光需要が減少する中、収益の柱とすべく、世界中で広がりがつつあります。

また、近年リモートワークが広がるなど、人々の働き方が変化しています。リモートワークには通勤が不要になるなど便利な側面がある一方、社員間のコミュニケーション機会が減少するなど、デメリットを指摘する声もあります。こうしたデメリットを解消し、リアルなオフィスの良い面を取り込むためのサービスとして、「バーチャルオフィス」があります。米国では、CGで作成したバーチャルオフィスにアバターが出社し、同僚と会話したり会議室を利用するなど、実際のオフィスにいるかのような働き方を可能とするサービスの提供が始まっており、著名な大学などでも導入されています。

コロナ禍により、対面サービスを前提とする事業を行なう企業・個人は苦境に立たされました。しかし、XRの活用によって、非接触で、対面にはない付加価値を提供する新たなサービスが登場しており、今後の動向が注目されます。

XRは幅広い分野で活用されるようになっており、既存のビジネス手法を一変させるようなイノベーションを起こす可能性を秘めています。今後もXR関連企業の動向から目が離せませんね！

ステップアップ

XRは医療分野でも活用されています。手術のプロセスを事前にシミュレーションしたり、ARグラスに患者の血圧などの情報を表示するなど、手術時のアシストにも役立っています。また、複雑な医療機器の使い方をトレーニングする際に活用されるなど、XRは医療現場においても不可欠なものとなっています。



facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。